

仲島流忍者ごっこの指導を通して、低学年の体育指導を考える

1. 体育指導の見直しを！

- ・体育の指導は、自分が子ども時代に「教えられたように教える」傾向が特に強い。
- ・モデルになる体育の授業を見に行くこと。そして自分でもやってみる。研究授業を！

2. 低学年の体育のイメージ・・・遊園地のワクワク感 休み時間のキラキラした目

- ・総合的 ・個が一番 ・仲間と出会う ・しつけやきまり
- ・体づくりの基礎（調整力） ・運動の楽しさ ・巡回指導

3. 低学年の体育指導は、教育の原点といえる

- ・低学年の子どもの捉え方、体育指導の仕方は、全ての教科の指導の原点になっている
- ・子どもはどう成長していくのか、個、仲間、心、技術・・・の系統がわかってくる

4. 低学年の体育指導の落とし穴 （生活科や総合にも共通する落とし穴が・・・）

- ・「楽しくやっていたら自然に力がついていた」そんな体育、生活科、総合でありたいが、子どもが楽しそうにやっていたが「力がついていない」はダメ。力をつけなくてはならない。だから巡回指導を繰り返して、子どもを理解し、子どもに刺激を与えるのだ。連続で回れるかな？反対回りはできるかな？このリズムはどう？あの子の動きの真似はできるかな？ 次はどんなことに挑戦するの？ 等々 動きを広げる助言を必ずする。「みんな楽しそう」と全体的に見ていると個を見落としてしまう。「あの子」「この子」をしっかりと見る目を養うことが大切。 記録をとること。

5. 魅力ある体育学習にするための4条件

- ①魅力ある環境がある。 「おもしろそうだ、やってみたいな」 目がキラキラ
- ②自分の発想が生かせる。 「これならボクにもできそうだ」 心がワクワク
- ③仲間と一緒にできる。 「一緒にできて楽しそう」 仲間とルンルン
- ④時間が十分にある。 「思う存分できるぞ」 力がグングン

6. 1学年の体育指導の例

1年B組仲島学級の1年間 ミニミニ遠足から始まって、忍者ごっこの1年間

- ① ミニミニ遠足・・・毎朝10分間の学校一周 それを見たこと帳に書いていく 定点観測
- ② 校舎の裏で見つけた段ボール箱 段ボールで体育を始める マットがなくても回れる
- ③ 忍者ごっこはおもしろい。だって忍法が使えるから。忍法早歩き。忍法〇〇の術
- ④ 運動会も忍者で競争、忍者で踊る、忍者で片づける
- ⑤ 器具・用具を使って。紅白玉を使って。ボールを使って。なわを使って。ゴムを使って。

7. 1年B組 仲島学級・・・低学年の体育の記録

文、写真、ビデオを見ながら・・・

8. 低学年の体育指導のポイントあれこれ

①「おもしろそうだ、やってみたい」と思う環境をつくる

- ・どの子も入口をみつけられる環境をつくる。変身広場 くものすらんど 忍者ごっこ
- ・生活に密着したものを教材化する。
- ・指導要領で定められた領域はあるが、これらは別々でなく総合的に指導する方が効果的
- ・体育の時間だけではなく、生活の中にも広げる

②一人ひとりの発想が生かせる動きづくりをさせる

- ・何でもまず、自分で考える習慣をつける。 指示待ちの授業から、自ら動く授業へ
- ・一つの技を全員に教え込もうとしない。前転の仕方は何通りもある。動きは違うもの
- ・どの子も発想が生かせる助言をあたえる。 目がクルクルする動きを考えよう 息がハァーハァーする動きを考えよう ドキドキヒヤッとする動きを考えよう
- ・自由にするが放任ではない。一斉指導から巡回指導に！ そして子どもの心と体に触れる
- ・ほめ上手になるためには、とにかく子どものそばに行くこと。
- ・動きを広げるためには、友だちの動きの紹介し刺激をあたえる。もっと続けて・・・反対は・・・
- ・見本は上手な子ではなく、下手でも頑張っている子の姿を見せる。

③仲間と協力しながらできる場面をつくる

- ・体育は仲間づくりの絶好の機会。 グループ活動の場を生かす。 3人組活動
- ・見学者も必ず学習に参加させる。
- ・けんかはOK。そこから和が生まれる。けんかをさせないのではなく、むしろさせてみる
- ・みんなで、つまずきを乗り越える体験が大事。
- ・競走より協同の心を育てる。 ただし競走をないがしろにするのではない
- ・準備と後片付けは、大切な学習である。必ず自分たちでさせる

④時間を十分にあたえる

- ・納得するまで動かせてみる。また、動かない子も動くまで根気強く待つてやる
- ・低学年では、集合は多く、話は短く。 集合は並べるよりかためる（80度を集める）
- ・順番を待つ時間が少なくなる工夫をする。場の設定の工夫。ボールは一人一個が当たり前。
- ・できなくてもあきらめない態度の育成。 「出来ない」のじゃなく、「まだ出来ていない」「もうやらない」ではなく「もう少しやってみる」子に育てる

その他

- ・一番弱い子が生き生き活動しているかが、授業評価のポイント
- ・教師は一人ひとりの記録をとる。 タンブリンの裏に用紙をつける。
- ・授業のあとは作文を書かす。 感想や反省ではなく「先生に言いたいこと」で書かせみる
- ・着替えも大切な学習。服をたたむ、靴を揃える等きっちり指導する。
- ・廊下の歩き方もきちんと指導する